

「巢鴨くじら祭り2018」

第3回 くじら川柳 受賞作と選考理由

このたびは、「第3回くじら川柳」に多数、ご応募いただき誠にありがとうございました。今年はこちら部門670作品、大人部門164作品、特別参加4作品をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。

ご応募くださった皆さまは今回、“くじら”について、いろいろなこと考えてお書きいただいたことと思います。拝見してみて、それぞれに味わい深い川柳作品です。それを選者が多数決で賞を決めてしまえば味わいがなくなってしまうと考えて、今年からは選者がそれぞれ「これが素晴らしい！」と一押し作品を選ばせていただくことにいたしました。

選者：三遊亭金八師匠、NPO海のくに・日本、日本捕鯨協会、日本鯨類研究所

◎子ども部門 (全27作品)

1. 大賞 (4作品)

三遊亭金八選

No.119	ねこはニャー くじらの鳴き声 ホゲエかな	金井 優さん	豊島区立巢鴨小・5年
--------	----------------------	--------	------------

選評：落語家としてこれを採らない訳にはいかないでしょう！（笑）川柳というよりは大喜利の答えといった方がイイかも。「山田くーん、座布団一枚あげて」と言いたくなった。選者のツボにハマった。

NPO海のくに・日本選

No.541	給食で くじらが出現 大さわぎ	福本あいりさん	豊島区立仰高小・5年
--------	-----------------	---------	------------

選評：給食は、子どもたちがクジラ料理に出会うとても良い機会です。現在、鯨肉は昔のように一般的ではなくなったことから給食でも特別なメニューになってしまいました。この作品は、クジラが給食に出た日の教室を「くじらが出現」と、子どもたちの喜ぶ様子を切りとって詠んでいるところが素晴らしいです。

日本捕鯨協会選

No.77	潮ふいた クジラがくしゃみ したのかな	さいとうまいさん	江戸川区立東小松川小・3年
-------	---------------------	----------	---------------

選評：しぶきが遠くまで飛びそう・・・誰かがウワサしているのかな。それとも風邪を引いたのかな。風邪予防に体の温まるくじら汁がお勧めですよ。

日本鯨類研究所選

No.6	空の海 乗ってみたいな くじら雲	ほりえさやさん	江戸川区立東小松川小・3年
------	------------------	---------	---------------

選評：豊かな表現力で詠まれた一句に拍手。

2. 特選（8作品）

三遊亭金八選

No.503	青色 チャームポイント くじらのね	早坂 ^{みはな} 心花さん	豊島区立西巢鴨小5年
--------	-------------------	------------------------	------------

選評：「チャームポイント」という一言にハッと！。くじらとオシャレを結びつけたステキな発想に魅了されました。「女子力」を感じた数少ない句です。

三遊亭金八選

No.389	クジラ雲 1, 2の3で とどくかな	國見知花さん	豊島区立千早小・5年
--------	--------------------	--------	------------

選評：くじら雲の句は無数にありましたが「1, 2の3」という大人では使いこなせない表記と素直さが最高空に向かってジャンプするという元気さと勢いを買って採りました

NPO海のくに・日本選

No.594	くじらさん 海からくるよ 巣鴨にね	阿久津美沙さん	豊島区立高南小・5年
--------	-------------------	---------	------------

選評：海にいるクジラがチンドンの音色につられて巣鴨のお祭りに来る、という発想が楽しい句です。

NPO海のくに・日本選

No.609	クジラです プラスチックは ぼくのてき	向井 奏々さん	豊島区立高南小・5年
--------	---------------------	---------	------------

選評：クジラを主人公に、海洋汚染の問題をとらえた点が実にすばらしい一句です。

日本捕鯨協会選

No.472	のびてゆく わたしとクジラ せいくらべ	山下しいなさん	豊島区立朝日小・4年
--------	---------------------	---------	------------

選評：とてもかなわない大きなクジラと背くらべする情景にほっこりします。

日本捕鯨協会選

No.514	クジらがね 給食でると ジャンケンだ	稲葉美帆さん	豊島区立仰高小・5年
--------	--------------------	--------	------------

選評：子どもたちが給食の竜田揚げのおかわりをかけてジャンケンをしている様子が目に浮かぶような表現力です。

日本鯨類研究所選

No.579	鯨はね でかいしうまい すごいよね	駒田 湧さん	豊島区立高南小・5年
--------	-------------------	--------	------------

選評：くじらが大きいこと、くじらが美味しいことが両立していてどちらもすごいと感動した気持ちを見事に表現した一句。こういう両立が大事。

日本鯨類研究所選

No.611	日本人 クジラと仲が 深いんだ	三浦 凌さん	豊島区立高南小・5年
--------	-----------------	--------	------------

選評：日本人とクジラの「仲が良い」のではなく「仲が深い」としているところに、つながりの濃さがうまく表現されています。

3. 佳作（15作品）

三遊亭金八選

No.274	えへんえへん 海の王様 くじらさん	島田明沙さん	豊島区立清和小・5年
--------	-------------------	--------	------------

選評：「えへんえへん」という言葉で「海の王様くじら」が絵本を見てるかのようにくっきり浮かびました。

三遊亭金八選

No.288	鯨くん あなたはどうして 魚偏	<small>おうじろう</small> 石寺桜侍郎くん	豊島区立清和小・5年
--------	-----------------	---------------------------------	------------

選評：クイズの質問のようです（笑） どうしてでしょう？。答えはこの句にふれた人への宿題です

三遊亭金八選

No.164	荒波に くすぐられてる クジラだな	高橋大佑さん	豊島区立巢鴨小・6年
--------	-------------------	--------	------------

選評：俳句に近い趣です。どこを「くすぐられる」でしょうか。愉快的想像力をかきたてられました。

三遊亭金八選

No.239	くじらにく しょうわのころから だいにんき	田中充起さん	豊島区立長崎小・6年
--------	-----------------------	--------	------------

選評：「しょうわのころ」だとずいぶん昔かな？「くじらにく」も昭和人の郷愁。ひらかな表記がことに佳い

NPO海のくに・日本選

No.1	2020 クジラのおいしさ 広めたい	谷口実優さん	豊島区立池袋本町小・5年
------	--------------------	--------	--------------

選評：東京オリンピック・パラリンピックに向けた動きが本格化するなかで、クジラのおいしさも！
という豊かな発想にコピーライターの才能を感じました。

NPO海のくに・日本選

No.495	くじらから 海の広さを 感じるよ	藤巻芽依さん	豊島区立西巢鴨小・5年
--------	------------------	--------	-------------

選評：大きいクジラがゆうゆうと泳ぐ海。そこはとても広くて大きいということのをのびのびと詠んでいて
気持ちのよい一句です。

NPO海のくに・日本選

No.402	れきしある くじらりょうり 人気だね	磯野 周さん	豊島区立千早小・5年
--------	--------------------	--------	------------

選評：日本人は縄文時代からクジラを食べていたことが各地の遺跡からわかってきました。歴史をふまえて
日本の食文化を詠んでいる点がすばらしい。

日本捕鯨協会選

No.574	海色の 着物でおよぐ くじらさん	楢村真生さん	豊島区立高南小・5年
--------	------------------	--------	------------

選評：着物が似合うくじらさん。もしかして芸人さん？ 今から一席かなと思わせる一句。

No.467	クジラたち 北へ南へ 旅をする	村上正悟さん	豊島区立富士見台小・6年
--------	-----------------	--------	--------------

選評：クジラが極地と赤道の間、何千キロという長い距離を繁殖と摂餌のために回遊する雄大な様子を上手に表現しています。

No.7	くじら君 消ぼうしに なれるかな	よしだこうけんさん	江戸川区立東小松川小・3年
------	------------------	-----------	---------------

選評：同じ夢を見るライバルか？ 負けないぞという感が伝わってきます。

No.347	大きすぎ くじらは1人で 食べられない	わたなべ太がさん	台東区立蔵前小・3年
--------	---------------------	----------	------------

選評：独り占めしたいけど無理。みんなで食べようねという感が伝わってくる。

No.299	くじらのね さしみを食べて 元気でた	佐々木淳帆さん	豊島区立清和小・5年
--------	--------------------	---------	------------

選評：くじらの「食」を上手く表現した一句。

No.41	空高く クジラの水が まい上がる	一瀬莉彩さん	江戸川区立東小松川小・3年
-------	------------------	--------	---------------

選評：クジラそのもののジャンプより、まわりの水に着目したことが面白く、きれいに詠まれている。

No.68	うみにいる くじらのお肉 きになるな	小ざわさ月さん	江戸川区立東小松川小・3年
-------	--------------------	---------	---------------

選評：素朴な関心が「きになるな」と表現されていておもしろい。

No.218	さあ食うぞ うまいくじらの たつたあげ	中川陸央	豊島区立豊成小・5年
--------	---------------------	------	------------

選評：給食を前にした子どもたちの素直なうれしい気持ちがあふれています。

◎大人部門 (全14作品)

1. 大賞 (4作品)

No.30	文楽と ヴィオロン結ぶ ヒゲクジラ	中山精一さん	巣鴨商店街BOX(品川)
-------	-------------------	--------	--------------

選評：文楽にヴィオロン・・・とてもアカデミックです。和洋を問わず同じ芸事なので気持ちにひびきました。

No.151	知らなかった 小さいクジラは イルカの名	伊津野文さん	メール(ブラジル)
--------	----------------------	--------	-----------

選評：海を眺めながら「鯨類は約80種、そのうち4メートルより大きいものがクジラ、小さいものはイルカ」と知った筆者。そのとき海でイルカが跳ねたので思わず詠んだ、という臨場感が伝わってくる句。

日本捕鯨協会選

No.46	クジラ鍋 湯気の向こうに 父の顔	高屋繁樹さん	メール
-------	------------------	--------	-----

選評：家族団欒のようすが思い浮かびます。

日本鯨類研究所選

No.79	くじら雲 巢鴨祭りの 秋の空	小柴恵美子さん	FAX
-------	----------------	---------	-----

選評：今回のくじら川柳では“くじら雲”が夏の句でも秋の句でも詠まれていて、それぞれ情景が浮かびました。この秋の句は、カラッとした空にも“くじら雲”が合うことを伝えていて秀逸。

2. 特選（4作品）

三遊亭金八選

No.36	就活生 居並ぶ姿は 鯨幕	榎 隆人さん	メール
-------	--------------	--------	-----

選評：鯨幕という言葉はこの句のみだったので採りました。コントラストが利いています。

NPO海のくに・日本選

No.26	太古から くじらと共に 発展し	奥田あみさん	巢鴨商店街BOX(小石川)
-------	-----------------	--------	---------------

選評：近年、日本各地の遺跡からクジラの骨などが発掘され日本人が古くからクジラを食料としてきたことが裏付けられています。江戸時代には「鯨組」という一大企業群が長崎県や山口県の各地に組織され捕鯨が行われていました。日本人が原始的な狩猟を捕鯨産業につなげてきたことを見事に伝えています。

日本捕鯨協会選

No.52	鯨はね 見ているだけじゃ もったいない	山口英彰さん	メール
-------	---------------------	--------	-----

選評：ホエールウォッチングもいいけど、たべなきゃね。

日本鯨類研究所選

No.152	五輪戦 バレニン効果で 金メダル	須能邦雄さん	FAX(石巻)
--------	------------------	--------	---------

選評：オリンピックという話題性ある言葉と、クジラ健康効果を組み合わせ、金メダル獲得という国民の願いを表現しているところがすばらしい。

3. 佳作（6作品）

三遊亭金八選

No.58	寒空に 心も憩う 鯨汁	藤 直子さん	台東区立蔵前小関係者
-------	-------------	--------	------------

選評：すぐ、くじら祭りを思いうかべたので採りました。ちょっと直せば俳句になります

No.71	オキアミも 魚も食べて ニタリかな	亀嶋寧子さん	メール
-------	-------------------	--------	-----

選評：クジラの大食漢ぶりを伝えるとともに、鯨種のニタリクジラと笑い（ニタリ）をかけたところが上手い。

No.123	くじらから 歴史感じる くじら汁	茂呂居洪伸さん	豊島区立駒込中・1年
--------	------------------	---------	------------

選評：この頃は学校で「地産地消」や「地域の歴史的な食材を味わう」というテーマの給食が出されます。

この方は、果たして学校で味わったのか、巣鴨くじら祭りでの出会いだったか？くじらを2回重ねて詠むことで、日本人とくじらとの長く深い関わりを味わい深く詠んだ一句。

No.49	オコボレを 待つてホエール うちの犬	高屋真雅さん	東京大学教育学部附属中・2年
-------	--------------------	--------	----------------

選評：ご主人様たちだけいいの食べて、早くちょうだいとの声が聞こえるよう。

No.19	でかすぎる これはクジラか わからない	吾妻洸希さん	豊島区立千川中・2年
-------	---------------------	--------	------------

選評：目の前には大きな黒い塊がどこまでも。これは何？クジラ？

No.150	くじら汁 起死回生の この一杯	大和田昌江さん	巣鴨商店街BOX（巣鴨）
--------	-----------------	---------	--------------

選評：表現力にあふれた作品。とくに起死回生という言葉が、クジラの持つ栄養的価値を強く、象徴的に伝えていて秀逸。

特別参加作品：後援団体トップの皆さまからお寄せいただきました。

「見るもよし 食べるもよしの くじらかな」（水産庁長官 長谷成人様）

「豊島区の 文化のうねりは 海越えて」（豊島区長 高野之夫様）

「シロナガス マッコウと美味しい クジラさん」（豊島区教育長 三田一則様）
まっこと、うまい！

「捕鯨基地 船団と共に 消えたなり」（同）

にっぽん

NPO海のくに・日本事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-12-15 銀座細谷ビル

TEL. 03-3546-1291 FAX. 03-3546-1164

E-mail gyo@WFF.gr.jp <http://www.WFF.gr.jp>